

真夏の夜の夢

パック

ハーミヤ

レオン（ライサンダー）

ヘレナ

ダニエル（ディミトリアス）

妖精の王様（オーベロン）

妖精の女王様（タイターニア）

妖精たち（女王様のしもべ）

インドの子

猿回し（クインス）

サル（ボトム）

場所はアテネの森
妖精は人間には見えない

バックが幕前で注意事項を述べる。

「はじまりはじまり」と言つて、幕を開ける合図。妖精たちの歌。

【一場 アテネの街】

ダニエルがハーミアに言い寄っている場面で静止している。

歌が終わると、人間が動き出し、妖精は消える。

ダニエル 君はお父上に背くのか。

ハーミア ええ。

ダニエル 父親に逆らう事は、大きな罪だ。

君は子供を産めず、巫女として永久に暗い神殿で祈りを捧げる、そんな生涯をおくることになる。

ハーミア 望まない結婚をするくらいなら、そのように生きるわ。

ダニエル ハーミア、考え直すんだ。場合によっては死刑の可能性も……

ハーミア ダニエル、あなたが申し分のない人だということはわかっているわ。

でも、レオンだって立派な方よ。

ダニエル 君の婚約者は僕なんだ。お父上がそう言っている。

アテネの法律では、娘は父のものであり、父親の言うことには従わなければならない。

ハーミア 父が、私の目で見てくれたらいいのに。

ダニエル 殿様の結婚式まであと四日。

寛大な殿様は、それまで答えを待ってくださいているのだ。
分別をわきまえるんだ。

レオンが入って来る。

レオン やあダニエル、君への言伝を頼まれたん……

ダニエル (遮って) レオン、こんな危険な要求は引き下げてくれ。

ハーミアのお父上は僕を選んでいるんだ。

レオン そのことだが、君は親父さんのお気に入りだ。

ハーミアは僕に任せて、親父さんと結婚すればいい。

ダニエル 悪態をつきやがって。

法律では君たちの結婚は認められない。

レオン そうは言うけれど、君は他に恋人がいるんだろう？

ダニエル ……なんのことだ。

レオン 君はハーミアの親友の、ヘレナに夢中だと聞いている。

ダニエル それは昔の話だ。

レオン ヘレナはそう思っていないんじゃないか。

そうだ、そのことで伝言がある。

殿様が君に話を聞きたいそうだよ。

ダニエル ……しかたがない。いいかハーミア、あと四日だ。

それまでに心を入れ替えるんだ。

ダニエル 去る。ハーミアは落ち込んでいる様子。

レオン 薔薇の花に元気がない様だ。

ハーミア きつと雨が降らないからよ。今にも目から流れそうだけど。

レオン 今までたくさんの物語を読んだが、まことの恋がおだやかに結ばれたことがない。

たいてい、身分が違っていると、歳が離れすぎているとか。

ハーミア ひどい！身分の高い者が、低い者を好きになれないなんて。

レオン 年が違いすぎるとか。

ハーミア そんなの辛すぎる！年上の者が、若い者には合わないなんて。

レオン 友人でいるようにと、押し付けられたり。

ハーミア 我慢できない！他人に恋人を選ばれるなんて。

レオン やつと想いをとげても、戦争とか、死とか、病気とか、そんな邪魔が入る。束の間の命だ。

ハーミア まことの恋がいつもそうなら、辛抱も仕方のないことだわ。物思いやため息と同じ、恋の掟というなら。

レオン 仕方がない、か……ハーミア、聞いてくれ。僕の祖母が、アテネから八、九里離れた田舎に住んでいる。そこなら、アテネの厳しい法律も届かない。

ハーミア 結婚できるということ？

レオン そうだ。明日の晩、あの森で落ち合おう。

ハーミア 誓ってそうします。

ヘレナが通りかかる。

レオン　やあヘレナ。

ハーミア　ごきげんよう美しいヘレナ。

ヘレナ　美しいですって？その「美しい」という言葉は取り消しにして。
ダニエルはあなたの美しさに夢中なのだよ。
ねえ、教えて。どういうふうにあの人の心を操るの？

ハーミア　嫌な顔をするの。それでも私を好きだというの。

ヘレナ　あなたの嫌な顔が、私の笑顔になればいいのに。

ハーミア　さんざん悪口を言ってやるの、それなのに追いかけてくるの。

ヘレナ　あたしの祈りが、それだけの力を持っていれば。

ハーミア　嫌えば嫌うほど、寄って来る。

ヘレナ　慕えば慕うほど、嫌われる。

ハーミア　でも安心して。二度とあの人には会わないつもり。

レオン　ヘレナ、君には打ち明けておこう。

明日の晩、僕たちはアテネを抜け出すんだ。

ハーミア　あの森で落ち合うの。

五月祭のときにあなたとサンザシの花をとりに行ったあの森。子どもの頃、一緒に刺繍をしたり、内緒話をしたあの場所で。

ヘレナ　一緒に歌も歌ったわ。

あなたの声は、昔から綺麗だった。

ハーミア　懐かしいヘレナ、あなたも私たちの為に祈って。

あなたもダニエルと結ばれますように。

(レオンに) また明日。

レオン　ダニエルが君に夢中になることを祈っているよ。

レオンも去る。

ヘレナ　幸せが、人によってどうしてこうも違うのでしょうか。

アテネの中で一番の器量よしと言われた私。

でもそれが何だというの。ダニエルはそう思ってくれない。

ハーミアの美しい目に気付くまでは、私に愛を誓ってくれたのに。
……そうだ、ハーミアたちが逃げるのを知らせてやろう。
そうすればあの人の行き帰りを垣間見られる。
そして私は、自分をもっと苦しめてやりたいの。

ヘレナ去る。

【二場 妖精の森】

妖精たちが現れる。向かいからパックがやってくる。

パック おや、どこへ行くんだい？

妖精 妖精の女王様のために、露をとりにも。

パック へえ。女王様は姿を見せない方がいいと思うな。

妖精 どうして？

パック 妖精の王様が今夜、ここで宴をなさるんだ。

このごろ二人はとても仲が悪いから、顔を合わせたらどうなるか……

妖精 あなた（まじまじと見て）、あのすばしっこい、いたずらっ子の妖精、パックでしょう？

パック 僕を知ってるの？

妖精 あなたでしよう？ひきうすを勝手に動かしたり

妖精 ミルクを盗んだり

妖精 旅人に道を迷わせたり

パック 可愛がってくれるなら、幸運をさしだし、全てまるくおさめてみせる。

妖精 浮かれ小坊主のパックさんでしょう？

パック 妖精の王様にもふざけてやるんだ。

ほうら、王様と女王様のお出ました。

妖精は逃げるように去り、別々の方向から王様と女王様がやってくる。
お互いに機嫌が悪い。

王様 ご機嫌麗しゅう、高慢ちきの女王様。

女王様 そういうあなたは、嫉妬深い王様。

知っていますよ、あなたがインドの田舎娘と浮気をしていたことは。

王様 おまえだって、あのアテネの殿様と浮気をしていただろう？

あいつが前の奥さんと別れたのは、おまえのせいだ。

女王様 そんな根も葉もないことを。

王様 前の奥さんだけじゃない。

その前の妻、前の前の妻、前の前の前の妻と別れたのも、おまえの浮気のせいだ。

女王様 全部、あなたの嫉妬が作った妄想です。

そうやって、言いがかりをつけては、私達の宴の邪魔をなさる。季節がすっかり狂ったのは、あなたの気が散っているせいよ。

王様 俺はただ、例の孤児がほしただけだ。

女王様 あら、どの子かしら？

王様 君がインドから連れ帰った子だ。

女王様 それだけはあきらめてもらいましょう。

王様 夫に盾つくとは、どういうわけだ。

女王様 あの子の母は、私の信者でしてね、よく色んな話をしてくれました。でも、やっぱり人間、お産で命を落としました。

あの女のためにも、この子は私が育てます。

王様

なるほど、そうか……。
ときに女王殿、この森にいつまでいるつもりだ。

女王様

アテネの殿様の婚礼が終わるまでは。
もしあなたが、わたしたちの踊りや宴につきあってくださるのなら、どうぞ一緒に。

王様

その子をよこすなら、どこへでも付いていこう。

女王様

たとえあなたの妖精の国をくれても、それだけはだめ。

女王様去る。

王様

勝手にするがよい。
ああ、腹立たいい。なんとかあのインドの子を奪ってやる。

パック

浮気の腹いせのため？

王様

この無礼の仕返しだ……。そうだパック、恋のまじないの花を知っているか？

パック

どういうもので？

王様

キューピットの矢傷をうけた花だ。
もともと白かった花が、恋の矢傷を受けてたちまち赤く染まった。

パック 街の娘たちが「浮気草」と呼んでいる、あの花ですね？

寝ている臉に、その汁を絞って落とすと、目が覚めて始めて見たものに恋をする。

王様 その花を見つけて、摘んで、すぐに戻ってくるのだ。

パック 地球をひとめぐりしたって、四十分もかからない。

パックが駆け行っていく。

王様 高慢ちきの妻よ、お前の目が覚めて始めて見る者が、狼であれ、虫であれ、夢中になって追い回すのだ。

そして俺は、その隙にあの子をいたたく。

おや、だれか来たな。俺の姿は人間には見えない。よし、立ち聞きしてやろう。

妖精の王様は身を隠す。

ダニエルと、追ってヘレナがやってくる。

ダニエル 教えてくれたことには感謝するが、後を追いかけてくるのはやめてくれ。

ヘレナ あなたがあたしを引き寄せるのよ。

ダニエル 僕が君の気を引いたと？

はつきり言ってるじゃないか。もう愛してはいないのだ。

ヘレナ　そう、だから、いつそう好きになるの。

ぶたればぶたれるほど。

ダニエル　君を心底から嫌いになるようなこと言わないでくれ。

僕はハーミアとレオンを探す。

ダニエルは森の奥へ。

ヘレナ　女は言い寄られるもの。でも、私はついて行く。

そしてこの地獄の苦しみが天国の喜びに変わるのを待つ。

ヘレナも追う。

王様　美しい娘、可愛そうに。この森から出るまでに、男のほうから口説かれるようにしてやろう。

バックが戻って来る。

王様　ご苦労だったな、花は？

バック　このとおり。

王様　さあ、よこせ。女王は薔薇の枕で寝ている。

（行きかけて）そうだ、お前も少し持つていくがよい。
アテネの娘が恋をしている。だが、相手は女を嫌っている。
男の目に塗り付け、最初に娘を見るようにしてやれ。

パック どんな人？

王様 アテネの服装が目印だ。

パック きつとやってみせましょう。

二人別れて去る。

【三場 森の中の恋人たち】

レオンとハーミアが来る。ハーミアはくたびれた様子。

レオン ハーミア、疲れたらしいね。すこし休んでいこう。

ハーミア ええ、どこか横になれる場所を……私はここにします。

レオン 二人分の枕には十分だ。

ハーミア いいえ、一人分です。

レオン 誤解してはいけない。底意はないんだ。

ハーミア 信じています。でも、結婚まえの二人にふさわしい距離を。

レオン (しぶしぶ離れて) このくらいか？

ハーミア いいえ。

レオン (もう少し離れて) このくらい？

ハーミア いいえ。

レオン (少しづつ離れていく)

ハーミア (十分に離れたら) そう、そのくらい。
では、おやすみなさい、レオン。

命の続く限り、想いの変わらぬよう。

レオン その祈りに、同じ思いをこめて。

二人が眠りに落ちる。

バックがやって来る。

バック 森の中をさんざん探し回ったのに、アテネの人がどこにもいない。

あー、疲れた（レオンの上に座る）わっ、何？
アテネの服……この人？

（ハーミヤを見つけて）ああ、あの子、かわいそうに、近くで眠らせてくれないなんて。
この情け知らずめ。（花の汁を塗る）
これで目が覚めたら、たちまち恋の虜だ。

バックが去る。ダニエルとヘレナがやってくる。

ヘレナ 待つてダニエル！殺されてもいいから。

ダニエル 来るなど言っているんだ。

ヘレナ こんな暗闇に置いてきぼりにするの？

ダニエル これ以上ついてきたら、本当に殺してやるぞ。

ダニエル去る。

ヘレナ ああ（息が切れてへたりこむ）どんな猛獣だつて、あなたほど残酷ではないわ。

（レオンを見つける）あら、誰かしら、

レオンだわ！こんな地べたのうえに！

……死んでしまったのかしら、

ねえ、生きているなら、お願い、起きて、目を覚まして。

レオン
（とび起きて）君の為なら火の中にだってとびこんでみせる。

透き通るように美しいヘレナ！

ダニエルはどこへ行った？

この刃にかかってくたばってしまえばいい！

ヘレナ
まあ、よくないわ、レオン。

あの人がいくらハーミアを思っているからといって。

ハーミアが愛しているのはあなただけ、不足はないはずよ。

レオン
ハーミアに不足はない？大ありだ。

ハーミアではない、ヘレナなのだ、僕が愛しているのは。

ヘレナ
どうしてしまったの？

悪い冗談なら、よして。

レオン
君が蝶々なら、ハーミアはダンゴムシだ。

取り換えずにはいられない。

ヘレナ
……私を虫だとからかっているのね。

人を馬鹿にした口説きようをなさるなんて、あんまりだわ。

ヘレナ去る。

レオン （ハーミアを見て）そこで寝ているのだよ、ハーミア。

僕は、ヘレナのための騎士となる。

レオンもヘレナを追って去る。

ハーミア 助けて、レオン、蛇が胸のうえを……はやくどけて！

（起きる）ああ、こわい夢だった。

レオン、見て、あたしこんなにふるえて（いないことに気付く）

レオン？レオン！！ああ、どこへいらっしやるの？

聴こえるなら、何か言って！レオン！

……こわくて、気が遠くなりそう。レオン！

ハーミア、レオンを探しに行く。

【四場 女王様とサル】

女王様と妖精たちがやってくる。

女王様 どうか、子守唄を歌っておくれ。

妖精たちが妖精の歌を歌う。そのうちに女王様は眠り、徐々に妖精たちも眠る。
王様がやってきて、女王様の目に花の汁を塗る。

王様 目が覚めて何を見ようと、それがお前のまことの恋人だ。

山猫でも熊でも遠慮はいらない。

王様は去る。

猿回しとサルが芸の練習場所を探しにやってくる。

猿回し

いいか、アテネの殿様がこのたび結婚される。

普段は幡屋の俺達だが、なんとパーティに招待された。

サル

ウキ（やったー！うまい飯にありつけるぜ）

猿回し

しかし、俺達は客で呼ばれたんじゃない。

余興で芸をお見せするためだ！

サル

ウキ（気乗りしない）

猿回し

素晴らしい芸を見せることができれば、褒美をくださるそうだ。

サル

ウキ（褒美？）

猿回し

きっと、高級なバナナだ！

サル

ウキ（やる気満々です）

猿回し　よし、やるぞ！

練習中にパックが現れ、サルを連れ出す。

猿回し　おい、どこに行くんだ！

おい！

猿回しもサルを追いかけていく。

パックに連れられて、サルが戻ってきて、女王様にぶつかる。

女王様　（目が覚めてサルを見てしまう）まあ、素敵な殿方！

もっと近くで顔を見せて。

サル　ウキ？

女王様　なんて美しい声！

愛をささやかずにはいられない。

サル　ウキ（よくわかんないけど、主人のそこへかえろう）

女王様　逃げようだなんて、お考えにならないで。

わたしは夏の妖精、つねに夏がわたしに寄り添っている。
そのわたしが、そばにいてと言うのです。

サル
ウキ（暑い）

女王様
欲しいものは何でも取ってこさせましょう。

眠るときには、やさしく歌いましょう。

（妖精たちに）みんな、この方のために尽くすですよ。

妖精
どうぞ御用を！（口々に「私にも」と言う）

サル
ウキ（のどが渴いた）

女王様
花の露を取りましょう。

さあ、こちらへいらして。

一同去る。

【五場 パックの間違い】

王様とパックが話しながらやって来る。

王様
で、どうなったのだ。

パック
そのサルを見たときに惚れこんで、愛をささやいておられます。

王様
はっはっは、それほどうまくいうとは。

ところで、アテネの男のほうも、うまくやっただろうな。

パツク　もちろんですとも。

ダニエルとハーミアがやってくる。

パツク　あ、あの子です。でも、男は知らない人だ。

ダニエル　なぜ、そんなにいじめるのだ。

こんなにも君を愛している男を？

ハーミア　あなたが眠っているレオンを殺したのでしょう。

ダニエル　君がもらえるなら、殺すことも考えるさ。

ハーミア　やっぱりあなたが殺したのね！

寝ているのを刺すなんて、卑怯者、悪魔！

ダニエル　いいがかりはよしてくれ。

僕は殺してない。死んでないさ、きっと。

ハーミア　それなら、あの人は無事だとおっしゃって。

ダニエル　そう言つてあげたら、代わりに何をくれる？

ハーミア　ご褒美をあげます。二度とあたしに会えないという。

レオンを探しに、ハーミアは去る。

ダニエル　あれほど激怒している女のあとを追つてみても、仕方がない。
しばらくじっとしていよう。

（座り込む）悲しみの重荷がますます心に食い入る。
きつと、眠りが足りないからだ。（横たわる）

王様　どうなっている？

パック　ひよつとして、王様が言つてたのはこいつ？

王様　そうだ。さてはレオンとかいう男に塗つたのか？

パック　だぶん、そうです。

王様　この馬鹿者！レオンはどこにいるんだ。

パック　きつと、別の女を見たのでしょう。

王様 まさか、あの可愛そうなヘレナを見たんじゃないだろうな。

バック もしそうなら、不実の恋はそのまま、誠の恋は浮気になった！

王様 とんでもない間違いだ。

すぐに行け。ヘレナを連れてくるのだ。

おれはこの男の目にまじないをかけておく。

バック おい、きた。韃靼人の矢よりも早く。

バック 消え去る。

王様 （花の汁を塗る）瞳の底にしみとおるがよい。

お前の愛が誠の愛になりますように。

【六場 混乱する恋人たち】

バック が戻って来る。

バック 王様！そこにヘレナが来ています！レオンも一緒に！

馬鹿みたいに求婚している！この愚かな一幕、これより見せ物とまいりましょう。

人間には悲劇、妖精には喜劇。

ヘレナと追ってレオンがやってくる。

レオン 信じてくれ、冗談じゃないんだ。

ヘレナ あなたの誓いはすべてハーミアのものはずよ。

レオン 僕はたったいま、誠実な愛に気付いたんだ。

ヘレナ 誠実じゃないわ。ハーミアを捨てようとしているあなたは。

レオン あの女にはダニエルがいるだろう。

ダニエル (起きてヘレナを見る) おお、美しいヘレナ、森の女神。
あなた目と比べれば、水晶も濁ってみえる。

ヘレナ ……あああ悔しい!!嫌うだけでは足りないというの?
わかったわ、ふたりともぐるになって、あたしを笑いものにしてるのね。なんてひどい。

レオン 本当にひどい男だ、ダニエル。君が好きなのはハーミアだろう。
ヘレナのお相手は僕に譲るんだ。

ダニエル ヘレナのそばこそ、僕のいるべき場所だ。

ハーミアがレオンを探しながら現れる。

ダニエル 見ろ、君の恋人だ。

ハーミアがレオンを見つけて走り寄る。

ハーミア よかった！耳がね、あなたの声をたよりに、導いてくれたの。
でも、ひどいわ。どうして置き去りになさったの？

レオン （背を向けて）じっとしていられなかったのだ。
愛が俺を追い立てるから。

ハーミア どんな愛が、あなたを追い立てるの？

レオン 美しいヘレナ、夜を照らすこの女神のために。

ハーミア ヘレナのため？心にもないことを。

ヘレナ まあ、あなたもグルになっているのね。

姉妹のように親しく思っていたのは、あたしだけ？
男たちと一緒にになって、可愛そうな幼馴染みを笑いものにするなんて。

ハーミア 笑いものになんてしないわ。

ヘレナ あなたがレオンをそそのかして、あたしをほめるようにしむけたのでしょうか。

おまけにダニエルまで、急に女神だとか水晶だとか。みんなあなたの入れ知恵でしょう？

ハーミア なにを言ってるの、ヘレナ。

ヘレナ しらばっくれないで。

もしも、あなたに少しでも憐みの心があつたなら、こんなふうに笑いものにはしなかったでしょうね。

ヘレナは去ろうとする。

レオン 待ってくれ、ヘレナ。僕の想い、命、魂、美しいヘレナ。

ヘレナ お上手なこと。

ハーミア （レオンに）そんなにからかうものじゃないわ。

レオン 君は黙っている。

ダニエル ハーミアの言うことが聞けないなら、僕がとめてみせる。
腕ずくでも。

レオン 君の腕も、僕を止めることはできない。

ヘレナ、君を愛している。

ダニエル 僕ほどではない。

レオン そこまで言うなら、（袖をまくりあげて）。

ダニエル おお、すぐにでも。（同様に袖をまくりあげる）。

ハーミア （レオンをおさえて） ねえ、どうしてしまったの？

レオン どいてくれ、この豆粒！

ダニエル 無理をして息巻いているぞ！

この腰抜け！さまをしろ！

レオン はなせ！このインゲン豆！

ハーミア どうしたというの、あたしのレオン？

レオン あたしの？よしてくれ！

いくら嫌いな女でも、殴りたくはない。

ハーミア なんですって？……いったいどうしてしまったの？

あたしはハーミア、あなたはレオン、そうでしょう？
ゆうべまで、あなたはあたしを愛してくれてた。
それなのに、あたしを嫌いに？

レオン

そうだ、もう二度と会いたくなかった。
疑わなくていい、事実をはっきり認めるのだ。僕は君を嫌になった。
そしてヘレナを愛してる。

ハーミア

（ヘレナに）ああ何という事でしよう。魔術師よ、あなたは。
花をむしばむ毒虫、泥棒ネコ！

ヘレナ

そうやって、あたしがカツとなるのを見て笑うのでしょうか？
何さ、何よ、このいかさま師！
操り人形！

ハーミア

操り人形ですって？あたしを能無し愚か者と言いたいのか？
ああ、そう、やっと、わかったわ。
あなたはその賢い頭を使って、レオンに言い寄ったのね。
あなたのほうが賢い、その通りですもの。
でもね、この爪を、あなたの目に届かせるのに賢さはいらないの。

ヘレナ

ハーミア、馬鹿な真似はよして。

ハーミア 馬鹿！ほらごらんさい！

やっぱり馬鹿だと思っているのね！

ヘレナ

ハーミア、お願いやめて。レオンを想ったことなんて一度もないわ。あたしはただ、ダニエルを追ってここに来たの。

でも、あの人は、あたしを叱りつけたり、殺してやるとまで言うの。だから、このままそとあたしを返してちょうだい。

あたしは、自分の愚かしさを抱きしめて、アテネへ戻りたいの。

ハーミア

ええ、さっさと行ってしまえばいいわ。

「愚か」と言っても、あたしより何倍も賢いのだからね。

レオン

どけ、まつぼっくり。ヘレナが困っている。

ダニエル

でしゃばりすぎだぞ、レオン。ヘレナが迷惑している。

レオン

決闘だ！ヘレナ嬢を賭けて。ついてこい。

ダニエル

ついてこい？ばかな、一緒に行くぞ。肩を並べて。

レオンとダニエルが肩を並べて森の奥へ。

ハーミア いい腕だわ、この騒ぎは、みんなあなたのせいよ。

ヘレナ あたしはあなたが信用できない。もう我慢できないわ。

もうあなたからの悪口を浴びたくない。

ヘレナが駆けて行く。

ハーミア あきれてものも言えないわ。

ハーミアもヘレナのあとを追う。四人を見送つてため息をつく王様。

王様 おまえのそそっかしさからだぞ。

相変わらず、おまえはへまをするか、いたずらするかだ。

パック

僕はたしかにアテネの服装の男に塗りましたよ。

あの連中のつかみ合い、面白かったですね。

王様

バカ者！見ただらうな、彼らは決闘の場所を探している。

パック、急いで霧をおろすのだ。

あるときはレオンとなって、あるときはダニエルとなって、道を迷わすのだ。

二人が疲れ、眠ってしまったころ、この月の薬草をしぼって、レオンの目にたらすのだ。

そうすれば、目の迷いは消えて、まことの愛に戻る。

さあ行け、夜明けまでに片付けるのだ。

パック　王様、それならもう時間がありません。

王様　任せたぞ。

俺は女王のところへ行つて、インドの子どもをもらつてくる。

王様去る。

【七場　パックの魔法】

パック　あちらこちらと自由自在、僕は奴らを引きずりまわす。

恋のやつこを引きずりまわせ。

霧がおりてくる。怪しい雰囲気。

レオンが闇の中を手探りでやつてくる。

レオン　おい、どこだ、どこにいる。高慢ちきのダニエル、でてこい。

パック　（ダニエルになりきつて）ここだ、悪党め。剣を抜いて待っているぞ。

レオン　そこだな、行くぞ。

レオンは声のほうへ行く。

ダニエルが同様に手探りででてくる。

ダニエル レオン！何か言え！卑怯者！逃げうせたか？

パック （レオンになりきって）卑怯者、臆病者、貴様なら剣でなくても倒せるさ。

ダニエル そこにいるのだな？

ダニエルも声の方へ行く。レオンが再び戻ってくる。

レオン 声のするほうへ行ってみても、奴の姿はもうない。

ひとまず、ここで休むか。

夜が明けたら、きっと見つけてやる。

レオン眠る。

ダニエルが戻ってくる。

パック 卑怯者、なぜついてこないのだ？

ダニエル 勇気があるならかかってこい。

おい、どこにいるのだ。

パック こっちへこい、ここにいる。

ダニエル いいかげんにしろ。明るくなれば、貴様の命は終わりだ。

いいか、夜が明けたら、決着をつけるぞ。

ダニエルがレオンとは別の場所に横になり、眠る。
ヘレナがやつてくる。

ヘレナ ああ、いやな夜。明るくなれば、アテネに帰れるはず。
いまは眠りがほしい。
いつもみたいに、悲しみから目を閉ざすように。

ヘレナはダニエルの近くで眠る。

パック まだ三人か？もう一人来い。そら、来た。

ハーミアが力なく戻ってくる。

ハーミア こんなみじめな思いは初めて。
露には濡れるし、茨にはひっかかるし。もうこれ以上、動けはしないわ。
明るくなるまで、ここで休んでいこう。
天がレオンをお守りくださるよう。

ハーミアはレオンの近くで眠る。

パック 大地が寝床。ぐっすり眠れ。

(レオンの目に汁を塗る)

おめめが覚めたら、彼女を眺め、ぞっと嬉しくなる仕掛け。
これにて二組の恋人、まるく収まる。

バックが姿を消すと、霧が晴れていく。

【八場 王様と女王様】

女王様とサルが一緒にいる。妖精たちがまわりを囲っている。
サルの頭には花飾りがある。

女王様 さあ、ここにお座りになって。

ああ、なんてかわいらしいお鼻。(サルの鼻にくちづけをする)

サル ウキ(頭がかゆい)

女王様 頭をかいてあげて。

妖精 はい、喜んで。

サル ウキ(こそばゆい)

女王様 失礼のないように。

妖精 申し訳ありません。

サル ウキ（眠い）

女王様 音楽を。妖精たち。

妖精たちが歌い出す。その様子を妖精の王様が見ている。

王様 ごきげんはいかがかな、女王殿。

女王様 もうこの方なしでは生きていけません。

王様 そうか、しかしそいつはまずい話だ。

女王様 どうして？

王様 そいつはもともと、わたしのものだからだ。

女王様 お願いします。この方をどうかわたしのもとに、おそばにいさせてください。

王様 かわりになるものがあれば。

女王様 あなたがほしいと仰っていた、インドのあの子を。

王様 いいだろう。

パックが帰って来る。

王様 おお、パックか。どうだ、このあわれな姿。

例の孤児は手に入ったぞ。

パック そのようで。

王様 さて、目の迷いを解いてやろう。(薬草をとりだして)

浮気の神、キューピッドの花より、この月の女神ダイアナの花のほうが、はるかに強く、恵も多い。
目の迷いも消えるだろう。

(目に汁を塗る) さあ、目を覚ませ、女王よ。

女王様 (起きる) あら、私の旦那様？まあ、変な夢を見ましたわ。

サルに夢中になるという。

王様 そこにいるぞ？君の恋人が。

女王様 きゃあ！(サルを突き飛ばす)

どうしてこんなことに？

サル

ウキ？

ウキ（眠い）

女王様

妖精たち！この迷子のサルをもとの持ち主に返しておやり。

妖精たちがサルを王様のところへ連れて行く。

王様

パック、森に迷い込んだものたちは、おまえに任せる。
この、サルの坊やも含めてな。

パック

おやすい御用、あさめしまえだ。

王様

音楽を！この人間たちが、ぐっすり眠れるような。

女王様

それがいいわ。そして、もっと眠くなるような。

音楽が流れる。

パック

（耳を澄まして）妖精の王様、聞こえませんか、ひばりの声が。

王様

夜が明けるぞ、さあ、行こう。（王様と女王様が手を取り合う）これで俺達も仲直りだ。
明日の夜、アテネの城へ参って、盛大に祝福してやろうではないか。
そして彼らも、殿様と一緒に、めでたく式をあげさせてやろう。

妖精の三人は消える。

【九場 恋人たちの仲直り】

レオン

（目を覚ます）夢を見ていたようだ。ハーミアを忘れて、ヘレナに惹かれるという。なんという恐ろしい夢だったのだろう。嫌いになった、そう言ったような気がする。

ハーミア

（ねぼけて）ああ、助けて、蛇が……ねえ、助けて！

レオン

ハーミア。

ハーミア

（起きる）とても怖い夢を見たの。あなたが蛇になって、あたしを噛もうとするの。

レオン

僕も悪い夢を見た。でも、これだけは言える。僕の誓いはゆうべのまま、君と同じ思いだ。

ヘレナ

（起きる）ダニエル？（起こす）

ダニエル

（目を覚ます）何もかもが小さくかすんでいくようだ。

ハーミアを想う心が消え去り、ヘレナこそ、心のよりどころに思う。

ヘレナ

願ってもない天国だわ。

どうやら、まだ夢の中のようなね。

ハーミア　いいえ、これは現実よ、幸せ者のヘレナ。

ヘレナ　幸せ者？あたしが？

ダニエル　こんどこそ、死ぬまで、君に忠実でありたいと思う。

妖精たちが、二組の恋人たちを祝福する。

バックに連れられて猿回しがサルを探してやってくる。

猿回し　ああ、いたいた。こら、ダメだろう、勝手にうろろうしたら。
反省しなさい。

サル　ウキ（反省）

猿回し　よし、芸の本番は明日だ。しっかり練習するぞ。

サル　ウキ（アイアイサー）

猿回し　まったく、ただでさえ忙しいのに、殿様が仕事を増やすから余計に

サル　ウキ？

猿回し

それがねえ、殿様が突然言うんだよ。

「すぐにでも式をあげさせたい者がいる」って。

こっちはお召し物の準備に大忙し。

なにせ二組もいるからね。サルの手も借りたいくらいだよ。

レオン

すみません、誰と誰の式ですか？

猿回し

一組目がハーミア嬢とレオンとかいう若者、

二組目がヘレナ嬢とダニエルとかいう若者、

まったく、真夏になると若いカップルが熱に浮かれるとよく言うが、こんな夏の初めに殿様が浮かれるとはねえ。

猿回しがサルを連れて去る。

レオン

何と聞こえた？

ヘレナ

あなたとハーミアが結ばれると。

ハーミア

あなたとダニエルが結ばれるとも言っていたわ。

ダニエル

これは夢なのだろうか。

レオン

いいや、四人同じことを聞いている。これは夢ではない。

ダニエル 目が覚めていることが、これほど嬉しく感じたことははい。

ハーミア 夜中の苦しみが、全てこの幸福のためだったよう。

ヘレナ まるで拾った宝石みたいに、自分のことではないみたい。

パック (人間には聞こえない) そうさ、夢をみていたのだ。

人間には悲劇で、妖精には喜劇のゆめ。

レオン さあ、殿様のところへ行こう。後光家の感謝と、

ダニエル 昨夜の出来事を聞いてもらいに。

パック 四人仲良く、手を取り合って、アテネに戻る。

すべてまるくおさまった。

四人の恋人たちがアテネに帰っていく。

【十場 結婚式】

妖精たちが歌いだす。王様と女王様が見守る中、結婚式の余興としてサルが芸を見せる。途中でパックが邪魔をしたりする。

そうしているうちに、二組の恋人たちが仲良く現れる。

王様 おめでとう、清らかな喜びに満たされた、日々の愛を！

女王様 あなたがたの結婚と、アテネの繁栄を祈ります。

人間には妖精の声は聞こえないが、祝福をあびながら妖精と人間が歌う。
歌が終わると、二組の恋人はそれぞれの方向へ去る。同様に猿回しとサルも退場。

王様 さあ、いよいよ、真夜中。この館に光を、祝福の踊りを。

女王様 そうして、この館を清めましょう。

それがわたくしたちの、ささやかな祝福です。

妖精たちが灯りを持って館内を清める。
去っていきながら、明りを消していく。
パックだけが残る。

パック 悪くない夢だったら、願ったり叶ったり。

つまらなかったら、初夏の夢だと思って下さい。

今夜はこれまで。次の舞台は見事な舞台にしてみせます。

パックは嘘をつきません。

それでは皆さま、パックがお礼をいたします。

